2024年12月22日（日）待降節主日朝礼拝説教

『飼い葉桶のしるし』　井上隆晶牧師
イザヤ書11章1～5節、ルカによる福音書2章8～20節

❶【降って来る事がキリスト教の特徴。神は人に合わせられた。】
クリスマスおめでとうございます。先日、久し振りに梅田を歩いたらクリスマスイルミネーションがキラキラと輝いていてとても綺麗でした。世の人たちは聖書の話は何も知らなくても「クリスマスは光と闇がテーマなのだ」という事を感じているのです。イエス様が生まれた夜、羊飼いたちがベツレヘムの郊外で野宿しながら夜通し羊の群れの番をしていました。すると突然、光り輝く天使が現れ羊飼いたちに近づいて来ました。彼らはその光に照らされ、真っ暗だった大地は明るくなりました。聖書はこう書いています。「**主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。**」（ルカ2：9～11）**天からの光の到来、これがクリスマスの特徴です。**天使は言いました。「**『恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを伝える。今日、ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは布にくるまって飼い葉桶に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。』**」（ルカ2：9～12）天使が現れる時、必ず言うのが「**恐れるな**」です。旧約聖書では「神を見た者は死ぬ」（出エジプト 33：20）と言われていました。だから羊飼いたちは恐れたのです。しかし彼らは死にませんでした。それどころか宗教とは無縁のような生活をしていた羊飼いたちに救い主の誕生が告げられたのです。天使は「**あなたがたのために救い主がお生まれになった**」といいました。あなたも神様に覚えられているという事です。私などは救われないと思っている人も、神様に招かれているという事なのです。**それは最も低い所にまで、最も暗闇の中にいる人の所にまで神の恵みと神の光は届くということを教えているのです。**続いて天使たちの大軍が現れ、地上に向かって「**いと高きところには神に栄光あれ、地には平和、御心に適う人にあれ。**」（ルカ 2：14）と大合唱をし、神の偉大な業を讃えました。
ここにキリスト教の特徴がよく表われています。この世の宗教は人間が頑張って天国に登らなければなりません。カルト宗教などは、いくら献金しなさい、何人連れて来なさいといった条件までつけます。それは下から上への《**人間の運動**》です。そこには必ず恐れが生まれます。なぜならいつも自分は条件を満たしているかどうか不安になるからです。**しかし、キリスト教はその逆で、神の方から罪人に近づいてくるのです。光が闇の中に差し込んでくる、天国が地上に（地獄の中に）降って来る、そして天と地がひとつになるのです。つまり上から下への《神の運動》です。今日読んだクリスマス物語はすべて上から下への物語です。人は何もしていません。神は人となり、天使は貧しい羊飼いに救いを語り、天から地上に賛美が注がれます。降って来るという事、これがキリスト教の特徴です。**私

はこれがものすごく重要なことだと思っています。羊飼いたちは「**その出来事を見ようではないか**」（15）と言い、マリアは「**それらの出来事をすべて心に納めた**」（19）と「**出来事**」という言葉が繰り返されています。クリスマスは神がされた出来事なのです。神がなさったことを語るのがクリスマスなのです。

●パウロはコリント教会への手紙の中で「**知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。**」（Ⅰコリント８：1）といいました。その人が人間的に成長したかどうかは、相手に合わせることが出来るかどうかを見たら分かります。相手の所まで降りてゆけるということ、相手と同じ目線になって語り、相手の分かる言葉で話し、相手の成長に合わせて歩むことができるということです。**イエス様がいかに謙虚であったか。何でも知っておられたのに、たとえ話しか話さず、太陽よりも輝いているのに、まばゆい光を出さず、人々が安心するように、貧しく、小さく、弱くなりました。最も弱い人にご自分を合わせたのです。これを愛と言います。愛は相手に自分を合わせる能力です。**神様のすごさとは、大宇宙を創造したことよりも、小さく弱い人間に自分を合わせてご自分も弱い人となり、身をかがめ、人の苦しみや悲しみを共感し、涙する低い者になったことです。

❷【なぜ貧しい羊飼いたちに降誕は知らされたのか】

しかしなぜ、救い主の誕生は神殿で神に仕えていた祭司ではなく、メシアを熱心に求めていた宗教者にでもなく、羊飼いに知らされたのでしょう。祭司たちは言うでしょう。「何でお前などに伝えられたのか！お前のいう事は信じられない。」なぜ、羊飼いだったのでしょうか。この後、羊飼いたちは「**さあ、ベツレヘムに行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか。**」（15 節）と話し合い、急いで行って飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を探し当てました。「**探し当てた**」というのは、すぐには見つからず、いくつかの馬小屋を尋ね歩いたということです。「**その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。**」（17～18 節）とあります。羊飼いたちはすぐに人々に天使の話を伝えましたが、聞いた人たちは不思議には思いますが、その出来事を見には出かけませんでした。どうして行かないのでしょう。天使は「**飼い葉桶に寝ている乳飲み子**」が「**あなたがたへのしるしである**」といいました。「**しるし**」は英語では「サイン」です。ワンダーでもミラクルでもありません。天使が告げたしるしは、人々のイメージとはあまりにもかけ離れたもの、あまりにも平凡なことでした。しかし羊飼いたちは救いのイメージを信じたのではなく、神のことばを信じたのです。彼らは何と素直で、謙虚なのでしょう。そこに羊飼いたちに知らされた理由があるように思います。

❸【神に愛されていることを知ることが賛美の秘訣】

「**羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行きました。**」（ルカ　2：20）キリストが来ても羊飼

いたちの生活は何も変わりません。貧しく、辛い日々の労働が待っているだけです。でも彼らは賛美しながら現実の生活に帰って行きました。なぜ賛美ができたのでしょう。それはこんな自分たちが神に愛されている、こんな自分たちと共に神はいてくださるという神の愛が分かったからです。

●ある本の中の記事を見つけました。1987 年ヨハネ・パウロ二世は 9 月 17 日サンフランシスコのドローレス・ミッション教会でエイズ患者に接見していました。教皇はエイズ患者に「神はあなたたちを無差別に、無際限に、無条件に愛しておられる」といって一人一人に声をかけ、握手をしていました。その時、突然、青い目の小ちゃなブランダン・オー・ロークくんが抱かれていた父親の腕を振り払って、教皇の懐に飛び込んで来たのです。輸血でエイズに感染してしまった 5 歳の子にも、苦悩の毎日が始まりました。教皇は何のためらいもなく、その子のふくれ上がった顔の傷に接吻なさった時、アメリカの良心はそこに「教皇の心」以上に、「イエスの心」を読み取ったことでしょう。」私はこれを読みながら、自分の罪の傷口にイエス様は同じように接吻してくれたのだと思いました。私とまったく同じようになって、他者からの非難を受けて下さると思った時、涙が止まりませんでした。キリストの愛が分かると言うことほど嬉しい事はありません。

私たちはメシアが来れば、悪人を退治し、この世を平和にしてくれると思っています。私たちは奇跡を、ワンダー、ミラクルを求めます。しかし聖書が私たちに教えているのは、「キリストはこの世を変えるために来たのではなく、あなたを変えるために来た」ということなのです。たとえこの世がどんな闇のような世であっても、あなたの周りがどんなに変化しようとも、あなたさえ平安でいたらいいのです。

●U さんからいただいたゴーゴリという神父さんの手紙を読みました。「この世の生にはひとときの平穏もない。これを常に心しておかねばならない。今日、明日と不安は次々と起こる。私たちは、この世を祝い楽しむためではなく、戦いに呼び集められたのである。祝い楽しむのは来世でにおいてである。」

この世は海の波に似ていて、絶えず変化し、動揺し、安定することはありません。私たちはこの世に確かな平安を求めても、それが得られないのは、この世にないからです。唯一確かなものは神の愛です。「**私たちは、私たちを愛して下さる方によって輝かしい勝利を収めています。**」（ローマ 8：37）とパウロはいいました。私たちが死んでゆく時、何も残りませんが、唯一残るものがあります。それは「神の愛」です。神があなたにされたことは永遠に残ります。**確かなものは自分の中にも、この世にもなく、ただ上から来るのです。これが分かった人は幸せな人です。**今日、地であるあなたを天に引き上げるためにキリストはあなたの中に生まれました。今日、朽ちるあなたを朽ちない者にするために、キリストはあなたの中に横たわります。飼い葉桶は罪に汚れたあなた自身の象徴です。しかし罪の器であるあなたの中にキリストは喜んで来てくださいます。だから恐れてはなりま

せん。神は今日、あなたの親友となり、あなたの罪を負い、あなたに食べられて、あなたを永遠に生かす為に来たのです。